

講義要綱

SYLLABUS

2021年度

柔整科

1

年

【基礎分野】

生物学
生命倫理
生化学
心理学
英語
栄養学

【専門基礎分野】

解剖学Ⅰ
解剖学Ⅱ
生理学Ⅰ
生理学Ⅱ
職業倫理
柔道Ⅰ
柔道Ⅱ
柔道Ⅲ

【専門分野】

柔道整復理論総論Ⅰ
柔道整復理論総論Ⅱ
基礎柔整学
柔整骨折理論Ⅰ
柔整骨折理論Ⅱ
物理療法学
柔整脱臼理論Ⅰ
柔整軟損理論Ⅰ
柔整包帯実技
柔整副木実技Ⅰ
柔整副木実技Ⅱ
柔整基礎実技Ⅰ
柔整基礎実技Ⅱ
柔整骨折実技Ⅰ
臨床実習Ⅰ



学校法人 了徳寺学園

2021年度

[分野]

基礎

/ 科学的思考の基盤

[授業科目]

生物学**1学年**

[基本情報]

担当教員	神長 まどか		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員、医療系大学で生理学を担当している特任助教が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

生物学の理解を深めることで、生理学を学ぶ上での必要な基礎を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

随時、資料を配布します

[履修の条件・留意点]

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス, ホメオスタシス, 細胞膜の構造と機能, 物質輸送,	講義
2回	体液の区分と組成, 神経の構造と機能, 静止膜電位, 活動電位,	講義
3回	神経の興奮伝導, 興奮伝達	講義
4回	神経系の分類, 中枢神経系・末梢神経系, 体性神経系・自律神経系	講義
5回	自律神経とホメオスタシス	講義
6回	筋肉の分類, 骨格筋の構造, 筋収縮の仕方, 平滑筋と心筋,	講義
7回	筋収縮のエネルギー供給, ホルモンの一般的性質とホルモンの分泌調節	講義
8回	第1回～第6回までの小テスト	講義
9回	体温とその調節①	講義
10回	体温とその調節②, 尿の生成と排泄①	講義
11回	尿の生成と排泄②	講義
12回	尿の生成と排泄③	講義
13回	第9回～第12回までの小テスト	講義
14回	第1回～第13回までの復習	講義
15回	まとめと解説	講義

2021年度

[分野]

基礎

/ 科学的思考の基盤

[授業科目]

生命倫理

1学年

[基本情報]

担当教員	江黒 友美		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	長年、教育行政や小学校の管理職を歴任し、現在、医療人として必要な対人コミュニケーションや倫理的思考力、判断力、実践力等を指導する大学教授					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

医療従事者としての必要な実践的倫理観を身に付けるため、自らよりよい答えを導き出し、課題を解決していく活動を通して、医療に関する倫理的諸問題を考え、人として必要な倫理観を養い、考える力と自分なりの答えを導き出す力を育て、医療人としての自覚を身に付ける。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。授業点40点、単位認定試験60点の総合判定による。

[教科書]

[参考書]

各回ごとに必要な資料を配布します。	『現代倫理学入門』 加藤尚武 (講談社学術文庫)
-------------------	--------------------------

[履修の条件・留意点]

アクティブラーニングを中心とした活動を行うので、積極的な参加を望む

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	イントロダクション 自分で答えを見出すこと	講義
2回	倫理とは何か ー 柔整師と倫理	講義
3回	医療人の基本理念・求められる医療人 ー 礼節とホスピタリティー	講義
4回	コミュニケーションツールの基本ー 社会でのマナーと言語による意思疎通	講義
5回	コミュニケーションツールの基本ー 患者さんへ思いを伝える文章表現	講義
6回	人間として何が正しいのか ー物事の判断基準 功利主義と義務論(1)	講義
7回	人間として何が正しいのか ー物事の判断基準 功利主義と義務論(2)	講義
8回	生命倫理 現代医療の発達と倫理	講義
9回	生命倫理 未来の医療 ロボット・AIと倫理	講義
10回	生命倫理 進化する医療 ドーピング 優生学	講義
11回	生命倫理 進化する医療 生殖医療	講義
12回	生命倫理 進化する医療 遺伝子療法	講義
13回	生命倫理 医療人と患者との関わりー命の尊さとは 安楽死を考える	講義
14回	医療人としての自覚と覚悟	講義
15回	単位認定試験 まとめと解説	講義

2021年度

[分野]

基礎

/ 科学的思考の基盤

[授業科目]

生化学**1学年**

[基本情報]

担当教員	柳平 悦子		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	長年、高校教員として生物、化学、物理を担当し、生体内における代謝、化学変化を理解してもらい、生理学の基礎として十分な理解力を養われる。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

化学に関する知識を身に付ける。ヒトに関する科学を理解する上で基本となる物質の化学変化を理解し、生理学や解剖学を学ぶ基礎を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。

[教科書]

[参考書]

プリント、コンパクト生化学

[履修の条件・留意点]

随時、プリントを配ります。当日、必ず受け取ること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	概論（電解質と非電解質、無機化合物と有機化合物）	講義
2回	原子の構造、結合様式	講義
3回	式量、モル濃度	講義
4回	酸と塩基	講義
5回	水素イオン濃度とpH	講義
6回	有機化学（脂肪族、芳香族）	講義
7回	飽和炭化水素（アルカン）	講義
8回	不飽和炭化水素（アルケン、アルキン）	講義
9回	アルコールの酸化、アルデヒド、カルボン酸	講義
10回	3価アルコール、グリセリン（グリセロール）	講義
11回	エーテル ケトン カルボン酸（脂肪酸）	講義
12回	エステル トリグリセリド	講義
13回	芳香族 カテコール	講義
14回	タンパク質 アミノ酸と糖質	講義
15回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

基礎

/ 科学的思考の基盤

[授業科目]

心理学**1学年**

[基本情報]

担当教員	橋本 和幸		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	大学で心理学を専門に担当されていた先生が、人間の心理的機能やそれらを表現する方法について事例を示しながら、自分や他人の心理を理解・共有する方法を教授する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

心理学は精神や行動を研究する学問であるが、着眼点や研究方法によって、様々な領域に分けることができる。本講義では、心理学の主な領域を紹介してそこから知識を得ながら、それらが自分自身の内的世界や日常生活にどのように関係しているかを学んで理解することを目指す。

[評価方法]

単位認定は講義内課題と単位認定試験の結果をもって判定する。

[教科書]

[参考書]

「専門職のための臨床心理学基礎【第2版】」 ムイスリ出版
ISBN978-4-89641-277

テーマごとに紹介する

[履修の条件・留意点]

知識提供と体験を織り交ぜながら心理学を理解出来るようにしていきたい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業の内容や進め方の説明	講義
2回	性格Ⅰ	講義
3回	性格Ⅱ	講義
4回	学習	講義
5回	記憶	講義
6回	感覚・知覚	講義
7回	動機づけ	講義
8回	心と身体の発達	講義
9回	発達段階と発達課題	講義
10回	対人関係の発達	講義
11回	社会Ⅰ	講義
12回	社会Ⅱ	講義
13回	臨床	講義
14回	まとめ	講義
15回	単位認定試験	講義

2021年度

[分野]

基礎

/ 人間と生活

[授業科目]

英語**1学年**

[基本情報]

担当教員	出縄 貴良		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	大学で英語を専門に担当されている先生が、医療現場に必要なコミュニケーションを英語で取るための基礎力を養うことに重点を置き、表現する力を習得させる。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

医療現場でよく使われる語彙やフレーズを覚える。また、英語音声のルールを覚え、そのような語彙やフレーズが英語で発話されても聞き取れるようにする。同時にそれらを自ら発話できるようにする。その際、片仮名ではなくしっかりと英語の音声ルールに則って発話するようにする。必要に応じてペアワークやグループワークを行うので、その際にはできる限り英語を用いること。また、リーディングを通して基本的な文法の復習も行う。

[評価方法]

・単語テスト 30% ・学期末試験 70% 欠席、遅刻、居眠り、私語、その他授業を受けるに値しない行為があった場合はその都度減点します。詳しくは第一回目の授業で説明するので必ず出席してください。

[教科書]

[参考書]

『やさしい医療英語(Medical English Clinic)』著者: 西原俊明, 西原真弓, Tony Brown 出版社: センテージラーニング出版 定価: 1900円+税	特になし
---	------

[履修の条件・留意点]

既に取り込みがされている教科書での授業参加は認めません。必ず教科書は購入してください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス	ガイダンス、英語で自己紹介	講義
2回	Unit 1 First Visit, アルファベットのルール1	Vocabulary Study アルファベットV、R、Lの発音について	講義
3回	Unit 1 First Visit, アルファベットのルール2	Listening Activity アルファベットS、Sh、Thの発音について	講義
4回	Unit 1 First Visit, 英語音声のルール1	Listening Activity, 会話練習, Writing Activity 英語の文における音声のルールについて	講義
5回	Unit 1 First Visit, 英語音声のルール2	Reading Activity 英語音声におけるリンキングについて	講義
6回	Unit 2 At the Examination Room	Vocabulary Study, Listening Activity 診察室で用いられる表現の確認	講義
7回	Unit 2 At the Examination Room	Listening Activity, 会話練習 英語での体温・血圧の表し方	講義
8回	Unit 2 At the Examination Room	Reading Activity, Writing Activity ノロウイルスについて	講義
9回	Unit 3 Flu Symptoms	Vocabulary Study, Listening Activity 病状を表す語句	講義
10回	Unit 3 Flu Symptoms	Listening Activity, 会話練習 英語で病状を伝える	講義
11回	Unit 3 Flu Symptoms	Reading Activity, Writing Activity タミフルについて	講義
12回	Unit 4 Pain Problems	Vocabulary Study, Listening Activity 痛みの種類を表す語句	講義
13回	Unit 4 Pain Problems	Listening Activity, 会話練習 英語で痛みを伝える	講義
14回	Unit 4 Pain Problems	Reading Activity, Writing Activity 狂牛病について	講義
15回	試験	試験	講義

2021年度

[分野]

基礎

/ 人間と生活

[授業科目]

栄養学**1学年**

[基本情報]

担当教員	柳平 悦子		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	長年、高校教員として生物、化学、物理を担当し、生体内における代謝、化学変化を理解してもらい、生理学の基礎として十分な理解力を養われる。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

栄養に関する知識を身に付ける。三大栄養素やビタミンなどの作用、各栄養素が含まれている食品についての知識を身に付け、選手や患者に対して適切なアドバイスが出来るようになることを目標とする。

[評価方法]

小テスト、本試験の結果による

[教科書]

[参考書]

プリント、コンパクト栄養学

[履修の条件・留意点]

随時、プリントを配ります。当日、必ず受け取ること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	栄養とは・・・栄養学概論（三大栄養素）	講義
2回	五大栄養素（ビタミン、ミネラルとは）	講義
3回	運動と栄養1（基礎理論、蛋白質）	講義
4回	運動と栄養2 スポーツ選手の競技力向上と栄養（蛋白質とアミノ酸）	講義
5回	運動と栄養3 一般人の健康増進と栄養（エネルギーの指標、栄養素の指標）	講義
6回	脂質とは（中性脂質と極性脂質）	講義
7回	脂肪酸の種類（必須脂肪酸）	講義
8回	糖質の化学（グルコース、フルクトースなど単糖類）	講義
9回	二糖類、多糖類（デンプンとグリコーゲン）	講義
10回	ビタミンの種類（水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン）	講義
11回	ミネラルとビタミン欠乏症	講義
12回	食物繊維、水、核酸（DNAとRNA）	講義
13回	栄養所要量、健康づくりのための運動指針	講義
14回	運動と栄養4. 生活習慣病の予防、肥満対策（摂取エネルギーと消費エネルギー）	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

解剖学 I**1学年**

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、JATIを持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

解剖学の理解と人体の基本的構造、骨格系についての知識を身に付ける。解剖学とはどのような学問かを理解し、人体の基本的構造を理解し、施術をあたる上で必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会

カラー人体解剖学 構造と機能：マイクロからマクロまで（西村書店）

[履修の条件・留意点]

解剖学の知識、特に筋・骨格系は、今後、学習する柔道整復学（骨折、脱臼等）や運動学等でも必須の知識です。ここでつまづいてしまうと他の学問の学習が滞ってしまう恐れがあります。覚える量が大変多い科目ですが、医療者として最低限知っておかなければならない範囲ですので、集中して授業に臨んで下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス：解剖学の用語（人体の面と方向）、細胞の構造（細胞内小器官）	講義
2回	細胞の構造（核、DNA）、細胞周期、上皮組織	講義
3回	支持組織、筋組織、人体の発生	講義
4回	骨格系①：総論 骨の役割、骨の構造、骨の発生と成長	講義
5回	骨格系②：総論 骨の維持と修復、骨の連結	講義
6回	骨格系③：小テスト①、関節の分類、関節の基本的構造	講義
7回	骨格系④：鎖骨、肩甲骨、上腕骨	講義
8回	骨格系⑤：橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨	講義
9回	骨格系⑥：小テスト②、寛骨①	講義
10回	骨格系⑦：寛骨②、大腿骨、膝蓋骨	講義
11回	骨格系⑧：脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾骨	講義
12回	骨格系⑨：小テスト③、脊柱の構造	講義
13回	骨格系⑩：脊柱の連結	講義
14回	総復習	講義
15回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

専門基礎

/ 人体の構造と機能

[授業科目]

解剖学Ⅱ**1学年**

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	2	時間数	40
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、JATIを持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

人体の筋について理解する。筋の基本的構造を学び、筋の役割を理解する。各々の筋の作用、走行、支配神経を理解し、説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。

なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会	カラー人体解剖学 構造と機能：マイクロからマクロまで（西村書店）
------------------	----------------------------------

[履修の条件・留意点]

解剖学の知識、特に筋・骨格系は、今後、学習する柔道整復学（骨折、脱臼等）や運動学等でも必須の知識です。ここでつまづいてしまうと他の学問の学習が滞ってしまう恐れがあります。覚える量が大変多い科目です

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	骨格系⑪：胸郭の構造	講義
2回	骨格系⑫：骨盤の構造	講義
3回	骨格系⑬：頭蓋骨の構造（脳頭蓋、顔面頭蓋）	講義
4回	骨格系⑭：頭蓋底の構造、頭蓋骨の連結	講義
5回	小テスト①、筋系①：筋の形態と構造、筋の作用、補助装置	講義
6回	筋系②：上肢の筋（上肢帯、上腕の筋）	講義
7回	筋系③：上肢の筋（前腕の屈筋、伸筋）	講義
8回	筋系④：上肢の筋（手の筋）	講義
9回	小テスト②、筋系⑤：下肢の筋（下肢帯の筋）	講義
10回	筋系⑥：下肢の筋（大腿の伸筋、屈筋、内転筋）	講義
11回	筋系⑦：下肢の筋（下腿の伸筋、屈筋、腓骨筋）	講義
12回	筋系⑧：下肢の筋（足背、母指球筋、小指球筋、中足筋）	講義
13回	小テスト③、筋系⑨：頭部の筋（表情筋、咀嚼筋、頸部の筋）	講義
14回	筋系⑩：胸部の筋	講義
15回	筋系⑪：腹部の筋	講義
16回	筋系⑫：背部の筋	講義
17回	小テスト④	講義
18回	総復習①（骨格系～上肢の筋）	講義
19回	総復習②（下肢の筋～背部の筋）	講義
20回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

専門基礎

/ 人体の構造と機能

[授業科目]

生理学 I**1学年**

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、鍼灸師を持つ大学の非常勤講師が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

生体を正常に保つ調節機構について理解する。消化器系の作用、栄養の吸収、栄養の役割と代謝、体温調節、尿の生成と排泄について理解し、栄養摂取や体温調節、不要となった物質の排泄がどのように行われているかを説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記問題で構成する。
正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

社団法人 全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）

[履修の条件・留意点]

特に復習に力をいれること。
授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	血液の生理学①（体液の区分，体液の組成，血漿成分）	講義
2回	血液の生理学②（細胞成分の役割）	講義
3回	血液の生理学③（血液型，免疫機能）	講義
4回	血液の生理学小テスト	講義
5回	循環の生理学①（体循環・肺循環，心筋の性質，刺激伝導系）	講義
6回	循環の生理学②（心電図，心周期，血管系）	講義
7回	循環の生理学③（血圧，循環の調節，局所循環）	講義
8回	循環の生理学④（循環のまとめ）	講義
9回	循環の生理学小テスト	講義
10回	呼吸の生理学①（呼吸器の解剖，換気のしくみ）	講義
11回	呼吸の生理学②（肺容積の区分，呼吸のためのしごと，ガス交換）	講義
12回	呼吸の生理学②（呼吸のためのしごと，ガス交換，ガス運搬）	講義
13回	呼吸の生理学③（換気量の調節，異常呼吸，呼吸のまとめ）	講義
14回	呼吸の生理学 小テスト	講義
15回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

専門基礎

/ 人体の構造と機能

[授業科目]

生理学Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎		単位数	2	時間数	40
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、鍼灸師を持つ大学の非常勤講師が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

生体を正常に保つ調節機構について理解する。消化器系の作用、栄養の吸収、栄養の役割と代謝、体温調節、尿の生成と排泄について理解し、栄養摂取や体温調節、不要となった物質の排泄がどのように行われているかを説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記問題で構成する。
正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

社団法人 全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）

[履修の条件・留意点]

特に復習に力をいれること。授業中、机上には、飲食物を置かないこと。
毎回、教科書を持参すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	呼吸の生理学②（呼吸のためのしごと、ガス交換、ガス運搬）	講義
2回	呼吸の生理学③（換気量の調節、異常呼吸、呼吸のまとめ）	講義
3回	呼吸の生理学 小テスト	講義
4回	消化と吸収①（消化器系の解剖、消化管の運動とその調節、消化管各部位での消化）	講義
5回	消化と吸収②（消化液と消化酵素、栄養素の吸収）	講義
6回	校外学習	講義
7回	消化と吸収③（排便反射、消化管ホルモン、肝臓のはたらき）	講義
8回	消化と吸収 小テスト	講義
9回	栄養と代謝①（5大栄養素、呼吸商、アトウォーターの係数、中間代謝・エネルギー代謝）	講義
10回	栄養と代謝②（高エネルギーリン酸化合物、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）	講義
11回	栄養と代謝 小テスト	講義
12回	体温とその調節①（核心温度と外殻温度、体温の生理的変動、体熱の産生）	講義
13回	体温とその調節②（熱放散、体温の調節、うつ熱と放熱）	講義
14回	体温とその調節 小テスト	講義
15回	尿の生成と排泄①（腎・泌尿器系の構造と機能）	講義
16回	尿の生成と排泄②（糸球体ろ過、尿細管における再吸収と分泌）	講義
17回	尿の生成と排泄③（尿の成分、尿量、尿の異常、排尿反射）	講義
18回	尿の生成と排泄 小テスト	講義
19回	全体のまとめ	講義
20回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

職業倫理

1学年

[基本情報]

担当教員	山本 清		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験あり/接骨院の院長を務めていた経験豊富な柔道整復師及び専科教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復師としての適切な倫理観を身に付ける。柔道整復術を業として行う際の正しい行動、思考を学び、職業人としての倫理観を逸脱することの無い様、適切な対応を出来る能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

第15回目に筆記試験を実施します。100点満点で60点以上を合格点とします。

[教科書]

[参考書]

「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」南江堂

「コ・メディカルのための医事法学概論」ミネルヴァ書房

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。携帯電話、スマホの使用は禁止する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	「柔道整復師職業倫理」を学ぶ意義・わが国の社会保障 A 社会保障とは	講義
2回	B 社会保険制度とは	講義
3回	C 医療保険制度とは その1	講義
4回	C 医療保険制度とは その2	講義
5回	医療従事者の職業倫理	講義
6回	柔道整復師業務における療養費 A 療養費制度の概要	講義
7回	A 療養費制度の概要柔道整復療養費 その2	講義
8回	A 療養費制度の概要	講義
9回	B 療養費請求のケース・スタディー	講義
10回	医療従事者の職業倫理	講義
11回	B 柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応 グループディスカッション	講義
12回	C 柔道整復師の社会的責任と対応 グループディスカッション	講義
13回	D グループ・ディスカッション事例	講義
14回	医療における情報と責任 柔道整復師職業倫理のまとめ	講義
15回	試験	講義

[授業科目]

柔道 I**1学年**

[基本情報]

担当教員	小野 卓志		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道6段。柔道世界選手権2度の銅メダリスト、および柔道グランドスラム5度の優勝など豊富な経験と技術をもつ大学教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習	

[授業目標]

柔道授業を通して、心身の力を有効に活用できるようにする。健康のため・運動力学の理論を知る・人の力を感じるなどの下位課題を達成し、柔道整復師としての技能向上を目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

醍醐敏朗「柔道教室」

[履修の条件・留意点]

柔道衣は毎回持ち帰り良好な状態（清潔、おおむね乾燥、不愉快な臭いがしない）に保つこと。常に怪我の危険性を予測し、真剣に行うこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	嘉納師範について～歴史秘話ヒストリア～	実習
2回	基本動作（礼法、姿勢、体さばき、移動の仕方、受身）	実習
3回	基本動作（崩し、組み方、受身）	実習
4回	受身および寝技の基本動作	実習
5回	寝技の基本動作および固技（袈裟固、崩袈裟固）	実習
6回	袈裟固、崩れ袈裟固の復習および膝車	実習
7回	膝車の復習および支釣込足	実習
8回	支釣込足の復習および固技（横四方固）	実習
9回	大腰および上四方固	実習
10回	大腰の復習および固技の復習	実習
11回	釣込腰	実習
12回	釣込腰および寝技の乱取	実習
13回	基本動作、对人的基本技術の復習	実習
14回	まとめ、解説	実習
15回	まとめ、解説	実習

[授業科目]

柔道Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	小野 卓志		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道6段。柔道世界選手権2度の銅メダリスト、および柔道グランドスラム5度の優勝など豊富な経験と技術をもつ大学教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

柔道授業を通して、心身の力を有効に活用できるようにする。健康のため・運動力学の理論を知る・人の力を感じるなどの下位課題を達成し、柔道整復師としての技能向上を目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

醍醐敏朗「柔道教室」

[履修の条件・留意点]

柔道衣は毎回持ち帰り良好な状態（清潔、おおむね乾燥、不愉快な臭いがしない）に保つこと。常に怪我の危険性を予測し、真剣に行うこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	基本動作,对人的基本技術の復習	実習
2回	背負投（打込,投込）	実習
3回	背負投の復習,一本背負投（打込,投込）	実習
4回	一本背負投の復習,体落（打込,投込）	実習
5回	総復習（背負投,一本背負い投,体落）	実習
6回	大外刈（打込,投込）	実習
7回	大外刈の復習,大内刈（打込,投込）	実習
8回	大内刈の復習,小内刈（打込,投込）	実習
9回	総復習（大外刈,大内刈,小内刈）	実習
10回	固技の基本動作,固技（肩固,縦四方固）	実習
11回	固技の復習及び固技の連絡変化	実習
12回	総復習（投技,固技）	実習
13回	まとめ,解説	実習
14回	まとめ,解説	実習
15回	柔道大会見学実習	実習

[授業科目]

柔道Ⅲ

1学年

[基本情報]

担当教員	小野 卓志		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道6段。柔道世界選手権2度の銅メダリスト、および柔道グランドスラム5度の優勝など豊富な経験と技術をもつ大学教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

柔道授業を通して、心身の力を有効に活用できるようにする。健康のため・運動力学の理論を知る・人の力を感じるなどの下位課題を達成し、柔道整復師としての技能向上を目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

醍醐敏朗「柔道教室」

[履修の条件・留意点]

柔道衣は毎回持ち帰り良好な状態（清潔、おおむね乾燥、不愉快な臭いがしない）に保つこと。常に怪我の危険性を予測し、真剣に行うこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	基本動作，対人的基本技術の復習	実習
2回	背負投・一本背負投・体落の復習	実習
3回	足技（大外刈・大内刈・小内刈）の復習	実習
4回	投技の連絡変化（足技から）	実習
5回	投技の連絡変化（足技から）	実習
6回	払腰	実習
7回	払腰の復習および内股	実習
8回	内股の復習	実習
9回	総復習（払腰・内股）	実習
10回	立勝負から寝勝負への連絡変化	実習
11回	試合練習（立技・寝技）	実習
12回	試合練習（立技・寝技）	実習
13回	総復習	実習
14回	まとめ、解説	実習
15回	まとめ、解説	実習

2021年度

[分野]

専門

/ 基礎柔道整復学

[授業科目]

柔道整復理論総論 I**1学年**

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、JATIを持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復学理論の骨折、続発症や後遺症の総論について理解する。施術の対象となる骨の損傷でどのような分類、症状があるのかを理解し、患者に説明できる知識を身に付ける。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果との総合判定による。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編

[履修の条件・留意点]

授業中の私語・飲食は禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	柔道整復師の沿革	講義
2回	骨の構造と機能	講義
3回	骨折の分類①（骨の性状、程度による分類）	講義
4回	骨折の分類②（骨折線の方向、交通の有無、外力の働いた部位による分類）	講義
5回	骨折の分類③（外力の働き方、部位、経過による分類）	講義
6回	小テスト①（1～4回の内容の確認）	講義
7回	骨折の症状・合併症①（併発症）	講義
8回	骨折の合併症②（続発症）	講義
9回	骨折の合併症③（後遺症）	講義
10回	骨折の合併症④（後遺症）	講義
11回	小テスト②（6～9回の内容の確認）	講義
12回	小児骨折	講義
13回	高齢者骨折・骨折の癒合日数・治癒経過	講義
14回	骨折の治癒に影響を与える因子	講義
15回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

専門

/ 基礎柔道整復学

[授業科目]

柔道整復理論総論Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、JATIを持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復学理論の脱臼、軟部組織損傷の総論について理解する。施術の対象となる脱臼、筋、腱、靭帯などの損傷でどのような分類、症状があるのかを理解し、患者に説明できる知識を身に付ける。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果との総合判定による。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編

標準整形外科学、柔道整復学 実技編

[履修の条件・留意点]

授業中の私語・飲食は禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、関節の構造、関節損傷	講義
2回	関節軟骨損傷、その他の関節構成組織損傷	講義
3回	脱臼1 脱臼の定義、性状、程度、位置による分類	講義
4回	脱臼2 数による分類、交通の有無、外力、時期、受傷後の分類	講義
5回	小テスト① (1~4回の復習)	講義
6回	脱臼3 脱臼の症状、合併症、整復障害	講義
7回	脱臼4 脱臼の経過と予後、まとめ	講義
8回	筋損傷 筋の機能解剖、各分類	講義
9回	腱損傷 腱の機能解剖、分類、症状、	講義
10回	小テスト② (6~9回の復習)	講義
11回	末梢神経損傷1 神経の機能解剖	講義
12回	末梢神経損傷2 神経損傷の分類	講義
13回	末梢神経損傷3 神経損傷の症状、治癒機序	講義
14回	小テスト③ (11~14回の復習)	講義
15回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

専門

/ 基礎柔道整復学

[授業科目]

基礎柔整学**1学年**

[基本情報]

担当教員	西田 朋美		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格を持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復術を学ぶ上で必要な基礎知識を身に付ける。骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷を理解する上で必要な知識を、生理学、生理作用を中心に学び、機序について理解し、患者に説明できる知識を身に付ける。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

生理学 改訂第4版 (南江堂)

解剖学 改訂第2版 (医歯薬出版)
柔道整復学理論編 改訂第6版 (南江堂)

[履修の条件・留意点]

教科書（生理学）は必ず毎回持参すること。柔道整復学理論編、解剖学の教科書を使用する場合は、適宜連絡します。

大事なことはプリントや教科書に随時書き込む。復習もきちんと行うこと（各章終了後、小テストを行います。成績不良の場合は課題あります）。

授業中は机の上に授業と関係ないものは出さないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	細胞の基礎知識（骨組織の働きと理解）	講義
2回	血液組成の基礎	講義
3回	骨折時の治癒機序（止血含む）	講義
4回	血液型の決定（ABO式血液型、Rh式血液型）	講義
5回	心臓の構造と機能の基礎	講義
6回	心電図の診方（安静時、運動時の変化）	講義
7回	呼吸器系の基礎	講義
8回	呼吸の調節（心肺機能の理解）	講義
9回	内臓系（消化器）の基礎	講義
10回	栄養の消化と吸収について（消化管の働き）	講義
11回	栄養の消化と吸収について（消化液の分泌機序と消化管ホルモン）	講義
12回	栄養の消化と吸収について（肝臓と胆道系の仕組み）	講義
13回	骨形成に関する栄養素	講義
14回	運動時のエネルギー代謝	講義
15回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

専門

/ 臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整骨折理論 I**1学年**

[基本情報]

担当教員	桐林 俊彰		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、柔道3段、医療系大学付属整形外科主任を務めている教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

上肢の骨折について理解する。肩甲骨から指骨までの骨折の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第6版 プリントを配布

[履修の条件・留意点]

疑問に思ったことは質問すること。授業中の机上に菓子、飲み物等を出しておかない。

授業中は飲食禁止。雑誌、携帯の使用禁止。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	鎖骨骨折1(発生機序・骨片転位)	講義
2回	鎖骨骨折2 (整復・固定・固定肢位)	講義
3回	上腕骨近位端部骨折 1 (骨頭骨折・解剖頸骨折・大結節・小結節骨折)	講義
4回	上腕骨近位端部骨折 2 (上腕骨外科頸骨折)	講義
5回	上腕骨遠位端部骨折 1 (上腕骨骨幹部骨折)	講義
6回	上腕骨遠位端部骨折 2 (上腕骨顆上骨折・外顆骨折)	講義
7回	前腕骨近位端部骨折1 (肘頭骨折・橈骨頭骨折)	講義
8回	前腕骨近位端部骨折2 (肘頭骨折・橈骨頭骨折)	講義
9回	前腕骨骨幹部骨折 (モンテギア骨折)	講義
10回	橈骨遠位端部骨折1 (コーレス骨折理論)	講義
11回	橈骨遠位端部骨折2 (スミス骨折理論)	講義
12回	手根骨骨折1・中手骨骨折1 (舟状骨骨折)	講義
13回	中手骨骨折2・指骨骨折1 (ボクサー骨折・手指骨折)	講義
14回	上肢のまとめ (総復習)	講義
15回	まとめ、解答 (単位認定試験)	講義

2021年度

[分野]

専門

/ 臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整骨折理論Ⅱ**1学年**

[基本情報]

担当教員	桐林 俊彰		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、柔道3段、医療系大学付属整形外科主任を務めている教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

体幹、下肢の骨折について理解する。頭部、体幹、下肢の骨折の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第6版 プリントを配布

[履修の条件・留意点]

疑問に思ったことは質問すること。授業中の机上に菓子、飲み物等を出しておかない。

授業中は飲食禁止。雑誌、携帯の使用禁止。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	前腕骨骨幹部骨折(モンテギア・ガレアジ骨折)	講義
2回	橈骨遠位端部骨折1 (コーレス骨折)	講義
3回	橈骨遠位端部骨折2 (スミス骨折・ショーファー骨折)	講義
4回	手根骨骨折・中手骨骨折 (舟状骨骨折・その他手根骨骨折)	講義
5回	中手骨骨折2・指骨骨折 (ボクサー骨折・マレット骨折)	講義
6回	上肢まとめ1 (鎖骨～上腕部骨折復習)	講義
7回	上肢まとめ2 (前腕部～手指骨折復習)	講義
8回	頭蓋骨骨折1 (頭部)	講義
9回	頭蓋骨骨折2 (顔面)	講義
10回	頸椎、頸部骨折	講義
11回	胸椎、胸部骨折	講義
12回	腰椎、腰部骨折	講義
13回	まとめ1 (頭蓋～腰部骨折復習)	講義
14回	まとめ2 (前腕～手指復習)	講義
15回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

専門

/ 臨床柔道整復学

[授業科目]

物理療法学**1学年**

[基本情報]

担当教員	泉澤 勝		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格、柔道5段、整骨院を開業している教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

種々の物理療法機器について理解する。電気療法、温熱療法、寒冷療法、光線療法、牽引療法についての効果、適応を理解し、使用方法や症状にあった機器を施術できる能力を身に付け、適切に説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上欠席があった場合、学年末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編	プリント配布
-----------	--------

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。携帯電話、スマホの使用は禁止する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	診察（診察時の注意点・診察の流れ）	講義
2回	診察（評価・治療計画・施術録の取り扱い）	講義
3回	治療法① 整復法	講義
4回	治療法② 軟部組織損傷の初期処置・固定法	講義
5回	診察・治療法確認テスト	講義
6回	後療法①（手技療法・運動療法）	講義
7回	後療法②（物理療法）	講義
8回	後療法③（物理療法）	講義
9回	後療法④（物理療法）	講義
10回	後療法⑤（物理療法）	講義
11回	指導管理①（松葉杖・洋服の脱ぎ着・アクセサリーの除去の仕方）	講義
12回	指導管理②（整復・固定・後療法の指導管理）	講義
13回	後療法確認テスト	講義
14回	全体の復習問題	講義
15回	まとめ、解説	講義

2021年度

[分野]

専門

/

臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整脱臼理論 I

1学年

[基本情報]

担当教員	西田 朋美		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および専科教員資格を持つ教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

上肢の脱臼について理解する。各関節の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

柔道整復理論 柔道整復実技

標準整形外科・柔道整復実技・骨折脱臼
X線写真のとり方と見かた

[履修の条件・留意点]

- ① 教科書（柔道整復理論）は必ず毎回持参すること。
- ② 大事なことはプリントや教科書に随時書き込む。
- ③ 分からないことはそのままにしないこと。
- ④ 復習をきちんと行うこと。
- ⑤ 万が一、プリントを忘れてしまったら、授業前までにクラスメイトに借りて印刷し、準備しておくこと。
- ⑥ 授業中はきちんとした姿勢で受講すること。（なるべくその日の授業で理解しようと努力すること。）
- ⑦ 授業中は机の上に授業と関係ないものは出さないこと。
- ⑧ 余計な私語は慎むこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	脱臼の定義 / 胸鎖関節脱臼	講義
2回	肩鎖関節脱臼①(発生機序・分類)	講義
3回	肩鎖関節脱臼②(転位・整復法・固定法)	講義
4回	胸鎖関節脱臼・肩鎖関節脱臼小テスト 解答・解説	講義
5回	肩関節脱臼①(解剖・分類・発生機序)	講義
6回	肩関節脱臼②(整復法・固定法)	講義
7回	肩関節脱臼③(合併症)	講義
8回	肩関節脱臼小テスト 解答解説	講義
9回	肘関節脱臼①(肘解剖・分類・発生機序・整復・固定)	講義
10回	肘関節脱臼②/ 肘内障	講義
11回	肘関節脱臼小テスト 解答・解説 / 遠位橈尺関節脱臼	講義
12回	月状骨・月状骨周囲脱臼	講義
13回	手指の脱臼 / 総復習	講義
14回	総復習	講義
15回	単位認定試験、解答・解説	講義

2021年度

[分野]

専門

/ 臨床柔道整復学

[授業科目]

柔整軟損理論 I**1学年**

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および教員資格を持つ教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

上肢の軟部損傷について理解する。各組織損傷の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編

プリント配布

[履修の条件・留意点]

上肢軟部組織損傷について理解し、臨床で対応できる知識を養う。
臨床や国家試験に対応出来る知識を養う。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	肩の軟部組織損傷(肩部解剖・腱板損傷)	講義
2回	肩の軟部組織損傷(上腕二頭筋腱損傷・SLRP損傷)	講義
3回	肩の軟部組織損傷(ペネット損傷・リトルリーガー肩・ルーズショルダー)	講義
4回	肩の軟部組織損傷(肩関節周囲炎・石灰性沈着・神経絞扼性障害)	講義
5回	肩部復習テスト	講義
6回	肘の軟部組織損傷(肘解剖・靭帯損傷)	講義
7回	肘の軟部組織損傷(野球肘・テニス肘・上腕骨外側上顆炎)	講義
8回	手の軟部組織損傷(手指解剖・TFCC損傷・キーンベック損傷)	講義
9回	手の軟部組織損傷(ドケルバン病・ロッキングフィンガー・ばね指)	講義
10回	手の軟部組織損傷(手～手指の変形)	講義
11回	肘・手部復習テスト	講義
12回	肘～前腕部神経損傷(正中神経)	講義
13回	肘～前腕部神経損傷(橈骨・尺骨神経)	講義
14回	神経まとめ・練習問題	講義
15回	まとめ・解説	講義

2021年度

[分野]

専門

/ 柔道整復実技

[授業科目]

柔整包帯実技**1学年**

[基本情報]

担当教員	五十嵐 貴仁	単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師、はり師きゅう師免許を所持し、接骨院で院長を務めている教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

包帯法の基礎について学ぶ。柔道整復師としての基本技術である包帯の種類、名称を理解し、基本的な包帯の巻き方が出来る知識と技術を身に付ける。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

包帯固定法

[履修の条件・留意点]

時間厳守。実習室使用の際は必ず白衣を着用の事。授業の際、使用する包帯セット、鋏は忘れない事。実技室での施術行為または飲食は禁止とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	全般の授業の進め方について	実習
2回	包帯の巻き方と注意事項、基本包帯法 P 8～P 2 1	実習
3回	包帯の巻き方と注意事項、基本包帯法 P 8～P 2 1	実習
4回	冠名包帯法 (デゾー包帯、ヴェルボー包帯、ジュール包帯) P 2 2～P 4 1	実習
5回	冠名包帯法 (デゾー包帯、ヴェルボー包帯、ジュール包帯) P 2 2～P 4 1	実習
6回	冠名包帯法 (デゾー包帯、ヴェルボー包帯、ジュール包帯) P 2 2～P 4 1	実習
7回	冠名包帯法 (デゾー包帯、ヴェルボー包帯、ジュール包帯) P 2 2～P 4 1	実習
8回	部位別包帯法：頭部、顔面部 P 4 2～P 4 7	実習
9回	部位別包帯法：上肢の包帯 P 4 8～P 5 3	実習
10回	部位別包帯法：上肢の包帯 P 4 8～P 5 3	実習
11回	部位別包帯法：下肢の包帯 P 5 6～P 6 6	実習
12回	部位別包帯法：体幹部の包帯、三角巾による提肘帯。 P 6 7～P 8 2	実習
13回	前期授業内容のまとめ。	実習
14回	実技試験	実習
15回	実技試験	実習

2021年度

[分野]

専門

/ 柔道整復実技

[授業科目]

柔整副木実技Ⅰ**1学年**

[基本情報]

担当教員	五十嵐 貴仁		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師、はり師きゅう師免許を所持し、接骨院で院長を務めている教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

副木固定法の基礎について学ぶ。柔道整復師が使用する副木固定の種類、名称を理解し副子の選択、作成、固定の方法と手順について知識と技術を身に付ける。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

包帯固定法

[履修の条件・留意点]

時間厳守。実習室使用の際は必ず白衣を着用の事。授業の際、使用する包帯セット、鉋は忘れない事。実技室での施術行為または飲食は禁止とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業の流れガイダンス・実技道具の配布と説明	実習
2回	厚紙副子、すだれ副子の作成及び包帯固定法 ① P 8 3～P 9 0	実習
3回	厚紙副子、すだれ副子の作成及び包帯固定法② P 8 3～P 9 0	実習
4回	金属副子（クラーメル金属副子）の作成 ≪上肢、下肢の作成と装着≫ P 9 1～P 9 3	実習
5回	金属副子（クラーメル金属副子）の作成 ≪上肢、下肢の作成と装着≫ P 9 1～P 9 3	実習
6回	アルミ副子（アルフェンス）の作成 P 9 4	実習
7回	アルミ副子（アルフェンス）の作成 P 9 4	実習
8回	熱可塑性キャスト材（板状）の作成 P 1 2 2～P 1 3 1	実習
9回	熱可塑性キャスト材（板状）の作成 P 1 2 2～P 1 3 1	実習
10回	絆創膏固定、テーピング固定① P 1 3 2～P 1 4 2	実習
11回	絆創膏固定、テーピング固定② P 1 3 2～P 1 4 2	実習
12回	絆創膏固定、テーピング固定③ P 1 3 2～P 1 4 2	実習
13回	前・後期授業範囲のまとめ	実習
14回	前・後期実技試験①	実習
15回	前・後期実技試験②	実習

2021年度

[分野]

専門

/ 柔道整復実技

[授業科目]

柔整副木実技Ⅱ**1学年**

[基本情報]

担当教員	五十嵐 貴仁	単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師、はり師きゅう師免許を所持し、接骨院で院長を務めている教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

ギプス固定の基礎について学ぶ。柔道整復師が使用するギプスの種類、名称を理解し作成、固定の方法と手順について知識と技術を身に付ける。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

包帯固定法

[履修の条件・留意点]

時間厳守。実習室使用の際は必ず白衣を着用の事。授業の際、使用する包帯セット、鋏は忘れない事。実技室での施術行為または飲食は禁止とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	部位別包帯法：体幹部の包帯、三角巾による提肘帯。 P 6 7～P 8 2	実習
2回	石膏ギプスの作成① (下肢)	実習
3回	石膏ギプスの作成② (下肢)	実習
4回	石膏ギプスの作成① (上肢)	実習
5回	石膏ギプスの作成② (上肢)	実習
6回	プラスチックギプス (キャストライト) の作成① (下肢)	実習
7回	プラスチックギプス (キャストライト) の作成② (下肢)	実習
8回	プラスチックギプス (キャストライト) の作成① (上肢)	実習
9回	プラスチックギプス (キャストライト) の作成② (上肢)	実習
10回	前期まとめ (各種包帯法)	実習
11回	前期まとめ (各種包帯法)	実習
12回	前・後期まとめ (主にアルフェンス固定、絆創膏固定)	実習
13回	前・後期まとめ (主にアルフェンス固定、絆創膏固定)	実習
14回	後期授業範囲のまとめ。	実習
15回	後期実技試験 解答解説	実習

2021年度

[分野]

専門

/ 柔道整復実技

[授業科目]

柔整基礎実技 I**1学年**

[基本情報]

担当教員	松本 楊		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師、柔道整復師専科教員、NSCA公認CSCS免許の資格をもち、医療系大学の講師を務める教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習	

[授業目標]

触診に関する基礎について学ぶ。柔道整復師として基本となる骨の名称、場所を理解し、ランドマークとなる骨の触診が出来る基礎知識と技術の習得を目指し、検査測定と評価の基礎を身に付ける。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。

定期試験90%、平常点（能動的な授業参加度を重視する）10%

[教科書]

[参考書]

	柔道整復学・理論編 解剖学
--	------------------

[履修の条件・留意点]

積極的に授業に参加しない学生は欠席とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	前期授業の解説・体の運動面及び運動方向	実習
2回	骨の役割, 骨の用語	実習
3回	骨の連結	実習
4回	上肢骨	実習
5回	肩関節	実習
6回	肩鎖関節, 胸鎖関節	実習
7回	肘関節	実習
8回	前腕遠位から手指の関節	実習
9回	下肢帯	実習
10回	自由下肢骨	実習
11回	下肢の関節	実習
12回	脊柱	実習
13回	胸郭, 顎関節	実習
14回	まとめ、解説1	実習
15回	まとめ、解説2	実習

2021年度

[分野]

専門

/ 柔道整復実技

[授業科目]

柔整基礎実技Ⅱ**1学年**

[基本情報]

担当教員	松本 楊		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師、柔道整復師専科教員、NSCA公認CSCS免許の資格をもち、医療系大学の講師を務める教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

触診に関する基礎について学ぶ。柔道整復師として基本となる筋肉の名称、場所を理解し、触診が出来る知識と技術を身に付ける。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。

定期試験90%、平常点（能動的な授業参加度を重視する）10%

[教科書]

[参考書]

	柔道整復学・理論編 解剖学
--	------------------

[履修の条件・留意点]

積極的に授業に参加しない学生は欠席とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	筋の基礎	実習
2回	胸部の筋	実習
3回	腹部の筋	実習
4回	背部の筋	実習
5回	上肢帯の筋	実習
6回	前腕の屈筋	実習
7回	前腕の伸筋	実習
8回	手の筋	実習
9回	頭部の筋, 頸部の筋	実習
10回	下肢帯の筋	実習
11回	大腿の筋	実習
12回	下腿の筋	実習
13回	足の筋	実習
14回	まとめ、解説1	実習
15回	まとめ、解説2	実習

2021年度

[分野]

専門

/ 柔道整復実技

[授業科目]

柔整骨折実技Ⅰ**1学年**

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および教員資格を持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

座学で学んだ上肢骨折の知識を施術に生かせるよう、実技内容を理解する。上肢骨折の整復固定の技術を身に付けることを目標とする。また、実技における単位試験と共に2年次の臨床実習に備えて身に付けて於かなければならない事項を「臨床実習前施術試験」として考査を受けることとする

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、身だしなみ、単位認定試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 実技偏

プリント配布

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯セット、ハサミを忘れない事。授業は常に白衣は着用する事。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中の机の上に菓子、飲み物等を出しておかない。実技室は飲食禁止。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	骨折総論（固有症状・全身症状・外力の働き方による分類）	実習
2回	骨折総論（骨折の合併症・小児骨折の特徴・高齢者骨折の特徴）	実習
3回	鎖骨骨折（理論・整復）	実習
4回	鎖骨骨折（整復・固定）8字帯+三角巾 テーピング固定	実習
5回	鎖骨骨折 実技認定対策用 8字帯+〇〇	実習
6回	肩甲骨骨折（理論・固定）上腕骨近位部骨折（理論・整復・固定）	実習
7回	上腕骨外科頸外転型骨折（理論・整復）	実習
8回	上腕骨外科頸外転型骨折（整復・固定）	実習
9回	上腕骨外科頸外転型骨折（整復・固定）実技認定対策用	実習
10回	上腕骨骨幹部骨折（理論・整復・固定）	実習
11回	上腕骨骨幹部骨折（整復・固定）実技認定対策用（ミッドドルフ三角副子）	実習
12回	復習（鎖骨骨折 / 上腕骨外科頸 / 上腕骨骨幹部骨折）	実習
13回	復習（鎖骨骨折 / 上腕骨外科頸 / 上腕骨骨幹部骨折）	実習
14回	解説・まとめ	実習
15回	解説・まとめ	実習

2021年度

[分野]

専門

/ 臨床実習

[授業科目]

臨床実習Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介		単位数	1	時間数	45
実務経験 /関連資格	臨床経験有り/柔道整復師および教員資格、JSPO-AT、はり師きゅう師の資格を持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

競技会場でのトレーナー救護実習を行う。柔道、陸上の競技会場で救護実習を行うことにより、外傷発生機序を通じて体験し、深く理解することを目的とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、中間評価、最終評価と臨床実習振り返りシートの記入をもって判定する。上記の全実習日程中、各自6回実習日を予定し、教務に連絡のこと。
なお、6回中、1/3以上の欠席があった場合、実習及び単位を認めない。

[教科書]

[参考書]

[履修の条件・留意点]

身だしなみ(髪髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。
医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	柔道	千葉県武道館	実習
2回	柔道	講道館	実習
3回	柔道	千葉県武道館	実習
4回	柔道	東京武道館	実習
5回	柔道	日本武道館	実習
6回	柔道	日本武道館	実習
7回	柔道	千葉県武道館	実習
8回	柔道	千葉県武道館	実習
9回	陸上	駒沢陸上競技場	実習
10回	柔道	千葉県武道館	実習
11回	陸上	駒沢陸上競技場	実習
12回	柔道	千葉県武道館	実習
13回	陸上	駒沢陸上競技場	実習
14回	陸上	駒沢陸上競技場	実習
15回	陸上	天台スポーツセンター	実習
16回	柔道	千葉県武道館	実習
17回	柔道	東京武道館	実習
18回	陸上	天台スポーツセンター	実習

19回	陸上	天台スポーツセンター	実習
20回	陸上	江戸川陸上競技場	実習
21回	柔道	講道館	実習
22回	柔道	千葉県武道館	実習
23回	陸上	江戸川陸上競技場	実習
24回	陸上	天台スポーツセンター	実習
25回	柔道	国土館高等学校	実習
26回	柔道	ゼットエー武道館	実習
27回	柔道	ゼットエー武道館	実習
28回	柔道	千葉県武道館	実習
29回	陸上	天台スポーツセンター	実習
30回	陸上	天台スポーツセンター	実習
31回	陸上	上柚木陸上競技場	実習
32回	陸上	上柚木陸上競技場	実習
33回	陸上	駒沢陸上競技場	実習
34回	陸上	江戸川陸上競技場	実習
35回	陸上	天台スポーツセンター	実習
36回	陸上	天台スポーツセンター	実習
37回	柔道	千葉県武道館	実習
38回	陸上	駒沢陸上競技場	実習
39回	陸上	駒沢陸上競技場	実習
40回	陸上	駒沢陸上競技場	実習
41回	柔道	墨田区柔道大会	実習
42回	柔道	東京武道館	実習
43回	陸上	天台スポーツセンター	実習
44回	陸上	天台スポーツセンター	実習
45回	柔道	千葉県武道館	実習
46回	柔道	千葉県武道館	実習